

# 風早の本だより

北条高等学校図書委員会

《9・10月号》

平成28年10月21日発行



中間考査も終わり、すっかり秋らしくなってきました。まさに読書の秋です。秋の夜長に、お気に入りの一冊をじっくり味わってみませんか。

10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）は読書週間です。

図書委員会の後期目標は、「本を読みやすい雰囲気のある図書館にする」となりました。図書委員もがんばっていますので、是非本を借りにきてください。

## 先生方のおすすめの本とメッセージ

宮内通廣先生（教科：英語）

### ① おすすめの本

書名：『14歳からの哲学』考えるための教科書

著者名：池田晶子

ある週刊誌で池田晶子氏の連載コラムを目にして以来、著者の考え方に共感し人生の生き方の指針として参考にしていた。彼女は若くして亡くなり、連載コラムも終了となったが、数多くの著書を残している。その代表作品の一つが中学生にも分かりやすく書かれたこの本である。語り口調は14歳に向けてではあるが、内容は高校生や社会人が読んでも考えさせられる書である。言葉、自分とは何か、家族、社会、理想と現実、友情と愛情、人生、自由など30のテーマを取り上げ、読者に「悩む」ことではなく、「考える」ことを呼びかけている。

注）宮内先生がこの本を寄贈してくださいました。図書館で貸し出します。

### ② 北条高校生にメッセージ

10代後半の高校生は多感で不安定な時期であり、友人関係、進路選択などさまざまなことにストレスや悩みを抱えていると思います。進路に迷ったとき、勉強が思うように進まないとき、なんとなくイライラしているとき、『14歳からの哲学』を是非手に取ってみてください。答えはありませんが、悩んでいる人に答えのヒントを教える書であり、「考える」ということを真剣に考えるための入門となる教科書です。「哲学」という学問に一度触れてみませんか！

小池千尋先生（教科：家庭）

### ① おすすめの本

書名：「黄色い目の魚」

著者名：佐藤多佳子

家にも学校にも居場所がなく、イラストレーターの叔父にだけ心を許す、村田みり。サッカーと絵を描くことが好きなクラスの落書き屋、木島悟。高校2年生で同じクラスになった2人の日常が、絵を通して交わっていきます。1つの場面を2人それぞれの視点から描いていて、悩みや葛藤の中にある2人の複雑な心情がよく分かります。今から14年前に発行された本なので、もう手に取って読んだことのある人もいるかもしれませんね。私は高校生の時にこの本と出会いましたが、今でも時々読み返すくらい印象に残っているのがこの本です。男女問わず楽しめ、引き込まれる小説です。

### ② 北条高校生にメッセージ

出会いを大切にしたいと思います。みなさんそれぞれ、家族や友達との人間関係、部活、進路など様々な悩みがあると思います。そんな時こそ、意見が合わないと思っている人、珍しい経験をしたことのある人、異なる年齢・国籍・性別の人など・・・自分とは交わることがないと思っていた人から刺激を受けることがあります。もしかしたら一生の付き合いになることも。それは身近にいる人かもしれないし、本の中の人物や偉人かもしれません。これからの出会い全てを前向きに、成長の糧にしてください。私も、皆さんとの出会いに感謝しています。

